

# 平成27年国勢調査

## 昼間人口の概要



総務省 国勢調査イメージキャラクター

## 利 用 上 の 注 意

この概要は、平成 27 年 10 月 1 日現在で実施された「平成 27 年国勢調査」の従業地・通学地による人口・就業状態等集計結果（平成 29 年 6 月 28 日総務省統計局公表）に基づき、昼間人口や昼夜間人口比率などについて、とりまとめたものである。

### 1 調査の目的

国勢調査は、統計法（平成 19 年法律第 53 号）第 5 条第 2 項の規定に基づき、我が国の人口・世帯の実態を把握し、各種行政資料その他の基礎資料を得ることを目的として実施する。

### 2 調査の対象

平成 27 年 10 月 1 日午前零時現在において、我が国に常住する全ての人について行う。

ただし、外国政府の外交使節団・領事機関の構成員等及び外国軍隊の軍人・軍属とこれらの家族を除く。

### 3 表中に用いた符号について

符号の用法は以下のとおりである。

「 0.0 」	・・・・・・・・	0.05 未満
「 - 」	・・・・・・・・	皆無または該当数字なし
「 △ 」	・・・・・・・・	減少

### 4 統計数値について

統計表において、割合を示す数値は四捨五入してあるため、総数と内訳の合計が一致しない場合がある。

### 5 統計数値の利用について

平成 27 年国勢調査の結果を利用する場合は、この概要ではなく「平成 27 年国勢調査報告従業地・通学地集計」の数値と用語の解説を確認の上、利用してください。

# 用語の解説

## 昼間人口

ある地域の常住人口に、その地域へ通勤者・通学者として流入する人口を加え、さらにその地域から通勤者・通学者として流出する人口を差し引いた人口のこと。

昼間人口には、買い物や行楽などのための一時的理由による流入、流出人口は含まれない。

## 夜間人口（常住人口）

当該地域に3か月以上にわたって住んでいる、または3か月以上にわたり住む予定の者をいう。

## 流入人口

当該地域に通勤又は通学し、常住地が他地域にある者をいう。

## 流出人口

当該地域に常住地があり、他地域に通勤又は通学する者をいう。

## 流入超過（流出超過）人口

流入人口から流出人口を差し引いた人口をいう。夜間人口に対する昼間人口の純増分を意味する。△（マイナス）の場合は流出超過である。

## 昼間人口指数

昼間人口指数とは、夜間人口を100としたときの昼間人口の割合。

$$\text{昼間人口指数} = \text{昼間人口} \div \text{夜間人口} \times 100$$

（例）昼間人口指数が100より大きい地域は、会社や学校が多く、人が通ってくる地域。

昼間人口指数が100より小さい地域は、ベッドタウンの要素の強い地域。

## 就業者

調査年の9月24日から30日までの1週間に、賃金、給料、諸手当、営業収益、手数料、内職収入などの収入になる仕事を少しでもした者。ただし、就業者は15歳以上とする。

## 通勤者

従業地が常住地と異なる就業者をいう。

## 通学者

小学校、中学校、高校、短期大学、高等専門学校、大学、大学院、盲学校、ろう学校、養護学校、各種学校及び専修学校に通っている者をいう。ただし、通学のかたわら仕事をしている者は通学者ではなく、就業者として取り扱っている。通学者は、15歳未満を含む。

### 昼間就業者・昼間通学者

昼間就業者とは、昼間人口のうち就業している者をいい、従業地による就業者をいう。  
昼間通学者とは、昼間人口のうち通学している者をいい、通学地による通学者をいう。

### 常住就業者・常住通学者

常住就業者とは、夜間人口のうち就業している者をいい、常住地による就業者をいう。  
常住通学者とは、夜間人口のうち通学している者をいい、常住地による通学者をいう。



国勢調査は、日本に住んでいる  
すべての人及び世帯を対象とする  
国の最も重要な統計調査です。

国内の人口や世帯の実態を明らか  
にするため、5年ごとに行われます。

この調査は、大正9年から行われ、  
平成27年国勢調査は、20回目に  
当たります。

# 目 次

1	昼・夜間人口	1
2	昼・夜間の就業者及び通学者	3
	（1）就業者	
	（2）通学者	
3	流入・流出人口	5
	（1）流入人口	
	（2）流出人口	
4	地域別流入・流出人口	6
5	産業別昼・夜間就業者	8
6	男女年齢別昼・夜間人口	10



## 1 昼・夜間人口



八王子市の昼・夜間人口は、  
ともに減少しています。

東京都の平成 27 年国勢調査による昼間人口は、15,920,405 人で、5 年前の平成 22 年に比べ、344,275 人(2.2%)の増加となっている。また、夜間人口も 13,515,271 人で、355,883 人(2.7%)の増加となっている。

八王子市の昼・夜間人口は、平成 17 年から平成 22 年にかけてともに増加していたが、平成 27 年の昼間人口は、576,240 人で、平成 22 年と比べ 1,799 人(0.3%)の減少となり、夜間人口も 577,513 人で、2,540 人(0.4%)の減少となっている。

昼・夜間人口を比較すると、平成 7 年・12 年は流入超過を示していたが、平成 17 年から流出超過に転じている。昼間人口指数(夜間人口を 100 とした時の昼間人口の値)も、平成 17 年から 100 を下回っている。

表 1-1 昼・夜間人口

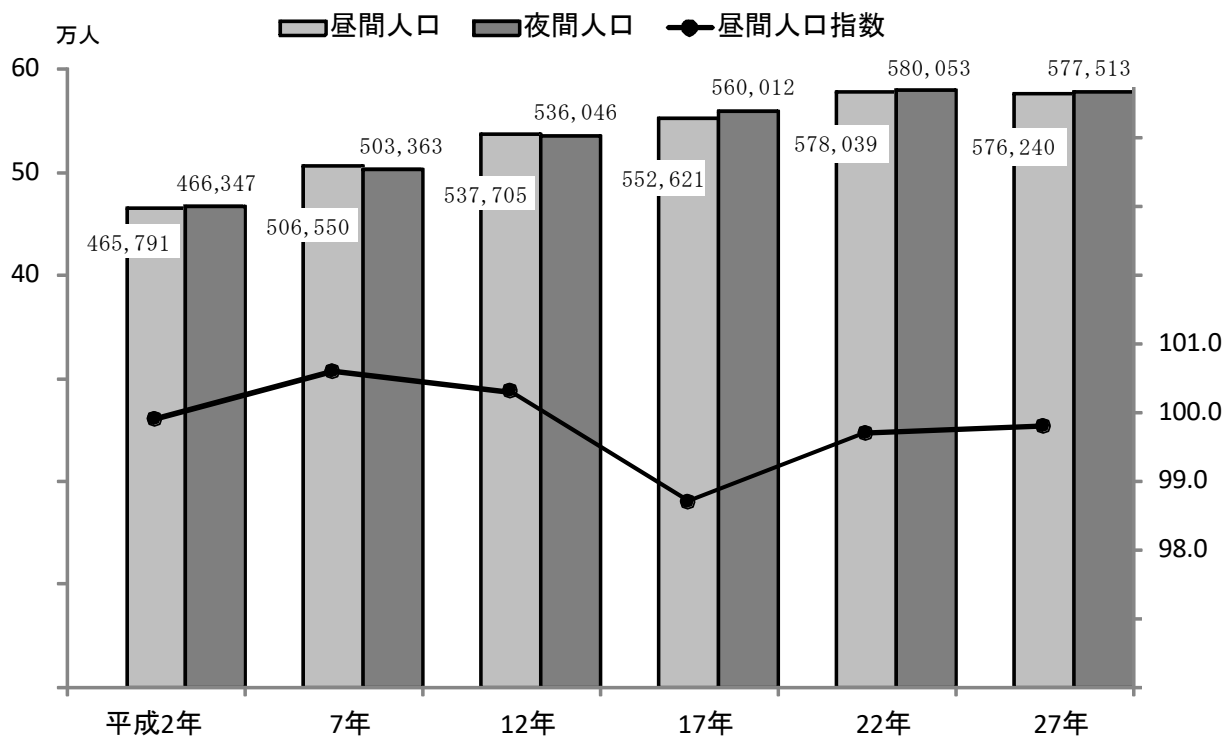
項 目	平成 27 年	平成 22 年	増 減 数 (増減率)	
			(人、%)	
			平成22年～27年	平成17年～22年
東 京 都				
昼間人口	15 920 405	15 576 130	344 275 ( 2.2 )	598 550 ( 4.0 )
夜間人口	13 515 271	13 159 388	355 883 ( 2.7 )	743 602 ( 6.0 )
八 王 子 市				
昼間人口	576 240	578 039	△ 1 799 ( △ 0.3 )	28 622 ( 5.2 )
夜間人口	577 513	580 053	△ 2 540 ( △ 0.4 )	23 245 ( 4.2 )

表 1-2 八王子市の昼・夜間人口の推移

		(人)					
項 目	平成2年	7年	12年	17年	22年	27年	
昼 間 人 口	465 791	506 550	537 705	552 621	578 039	576 240	
夜 間 人 口	466 347	503 363	536 046	560 012	580 053	577 513	
流入超過人口	△ 556	3 187	1 659	△ 7 391	△ 2 014	△ 1 273	
昼間人口指数	99.9	100.6	100.3	98.7	99.7	99.8	

注) 流入超過人口の△は、流出超過を示す。

図 1 八王子市の昼・夜間人口の推移 (平成 2 年～平成 27 年)





## 2 昼・夜間の就業者及び通学者

### (1) 就業者



八王子市の昼間・常住就業者数はともに減少しています。  
市外に出る就業者が市外から来る就業者より多い（流出超過）状態です。

東京都の昼間就業者数は、8,006,342人で、平成22年に比べ167,783人(2.1%)の減少となっている。

また、常住就業者数は、5,858,959人で、153,577人(2.6%)の減少となっている。

昼間就業者数と常住就業者数を比較すると、2,147,383人の流入超過を示しているが、平成22年に比べ流入超過人口は14,206人(0.7%)減少している。

八王子市の昼間就業者数は、216,040人で平成22年に比べ4,396人(2.0%)の減少となっている。

また、常住就業者数は247,855人で、6,065人(2.4%)の減少となっている。

昼間就業者数と常住就業者数を比較すると、31,815人の流出超過を示しているが、平成22年と比べると流出超過人口は1,669人(5.0%)減少している。

表2-1 昼・夜間の就業者数

項 目	就 業 者 数		(人、%)	
			増減数(増減率)	
	平成27年	平成22年	平成22年～27年	
	東 京 都			
昼間就業者数	8 006 342	8 174 125	△ 167 783 (	△ 2.1)
常住就業者数	5 858 959	6 012 536	△ 153 577 (	△ 2.6)
流入超過就業者数	2 147 383	2 161 589	△ 14 206 (	△ 0.7)
	八 王 子 市			
昼間就業者数	216 040	220 436	△ 4 396 (	△ 2.0)
常住就業者数	247 855	253 920	△ 6 065 (	△ 2.4)
流入超過就業者数	△ 31 815	△ 33 484	1 669 (	△ 5.0)

注) 流入超過就業者数の△は、流出超過を示す。

(2) 通学者



八王子市の昼間・常住通学者数はともに減少しています。  
市外に出る通学者よりも市外から来る通学者が多い（流入超過）状態です。

東京都の昼間通学者数は 1,679,335 人で、平成 22 年に比べ 95,912 人(5.4%)の減少となっている。また、常住通学者数は 1,421,603 人で、98,508 人(6.5%)の減少となっている。

昼間通学者数と常住通学者数を比較すると、257,732 人の流入超過となっており、平成 22 年に比べ、流入超過通学者数は 2,596 人(1.0%)増加している。

八王子市の昼間通学者数は 106,860 人で、平成 22 年に比べ 13,051 人(10.9%)の減少となっている。また、常住通学者数は 78,183 人で、10,256 人(11.6%)の減少となっている。

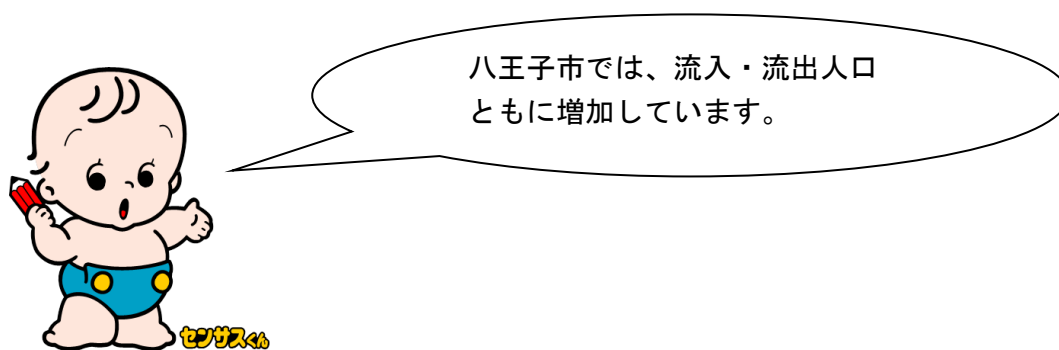
昼間通学者数と常住通学者数を比較すると、28,677 人の流入超過を示しており、平成 22 年に比べ、流入超過通学者数は 2,795 人(8.9%)減少している。

表 2-2 昼・夜間の通学者数

項 目	通 学 者 数		(人、%)	
	平 成 27 年	平 成 22 年	増減数(増減率) 平成22年～27年	
東 京 都				
昼間通学者数	1 679 335	1 775 247	△ 95 912 (	△ 5.4)
常住通学者数	1 421 603	1 520 111	△ 98 508 (	△ 6.5)
流入超過通学者数	257 732	255 136	2 596 (	1.0)
八 王 子 市				
昼間通学者数	106 860	119 911	△ 13 051 (	△ 10.9)
常住通学者数	78 183	88 439	△ 10 256 (	△ 11.6)
流入超過通学者数	28 677	31 472	△ 2 795 (	△ 8.9)

注) 流入超過通学者数の△は、流出超過を示す。

### 3 流入・流出口



#### (1) 流入人口

他県から東京都内への流入人口は 2,906,056 人で、平成 22 年に比べ 14,944 人(0.5%)の増加となっている。

流入人口のうち通勤者は 2,579,045 人で、平成 22 年に比べ 13,917 人(0.5%)増加しており、通学者も 327,011 人で、1,027 人(0.3%)増加している。

八王子市の流入人口は 125,545 人で、平成 22 年に比べ 2,324 人(1.9%)の増加となっている。

流入人口のうち通勤者は 79,234 人で、平成 22 年に比べ 4,833 人(6.5%)増加しているが、通学者は 46,311 人で、2,509 人(5.1%)減少している。

#### (2) 流出人口

東京都からの流出人口は 500,941 人で、平成 22 年に比べ 26,554 人(5.6%)の増加となっている。

流出人口のうち通勤者は 431,662 人で、平成 22 年に比べ 28,123 人(7.0%)増加しており、通学者も 69,279 人で、平成 22 年に比べ 1,569 人(2.2%)の減少となっている。

八王子市からの流出人口は 128,683 人で、平成 22 年に比べ 3,448 人(2.8%)の増加となっている。

流出人口のうち通勤者は 111,049 人で、平成 22 年に比べ 3,164 人(2.9%)増加しているが、通学者は 17,634 人で、平成 22 年に比べ 286 人(1.6%)の増加となっている。

表3-1 流入・流出人口

項目	流入人口			流出人口			流入超過人口
	通勤者	通学者		通勤者	通学者		
東京都							
平成27年	2 906 056	2 579 045	327 011	500 941	431 662	69 279	2 405 115
平成22年	2 891 112	2 565 128	325 984	474 388	403 540	70 848	2 416 724
増減数	14 944	13 917	1 027	26 553	28 122	△ 1 569	△ 11 609
増減率	0.5	0.5	0.3	5.6	7.0	△ 2.2	△ 0.5
八王子市							
平成27年	125 545	79 234	46 311	128 683	111 049	17 634	△ 3 138
平成22年	123 221	74 401	48 820	125 235	107 887	17 348	△ 2 014
増減数	2 324	4 833	△ 2 509	3 448	3 162	286	△ 1 124
増減率	1.9	6.5	△ 5.1	2.8	2.9	1.6	55.8

#### 4 地域別流入・流出人口

東京都への流入を県別にみると、神奈川県からの流入が最も多く1,068,505人、次いで埼玉県の936,100人、千葉県の716,881人となっており、この3県で東京都への流入人口全体の90%以上を占めている。

他県への流出を県別にみると、神奈川県への流出が238,314人で最も多く、次いで埼玉県の140,961人、千葉県の82,706人となっており、この3県で他県への流出人口全体の90%以上を占めている。

八王子市への流入人口及び八王子市からの流出人口を地域別にみると、多摩地域（市部）が概ね50%を占めている。

多摩地域からの流入をみると、日野市から13,259人（通勤者12.9%、通学者6.6%）、次いで町田市、多摩市からの流入が多くみられる。

他県からの流入では、神奈川県からが最も多く29,232人（通勤者22.9%、通学者24.0%）で、次いで埼玉県からの11,134人（通勤者6.8%、通学者12.4%）となっている。

多摩地域への流出では、日野市への流出10,994人（通勤者8.6%、通学者8.3%）が多く、次いで多摩市8,506人（通勤者7.0%、通学者4.0%）、立川市7,437人（通勤者5.8%、通学者5.4%）、町田市への流出6,213人（通勤者4.0%、通学者10.2%）となっている。通勤者では府中市も5,413人（4.9%）と多い。

特別区部への流出では、通勤者が37,763人と34.0%を占めている。

他県への流出では、通勤・通学者ともに、神奈川県への流出が最も多く16,324人（通勤者13.2%、通学者9.3%）、続く他県より際立っている。

表4-1 地域別流入・流出口（通勤・通学者）

地 域	流入人口（通勤者）		流入人口（通学者）		流出人口（通勤者）		流出人口（通学者）	
	人口(人)	比率(%)	人口(人)	比率(%)	人口(人)	比率(%)	人口(人)	比率(%)
東 京 都								
<b>総 数</b>	<b>2 579 045</b>	<b>100.0</b>	<b>327 011</b>	<b>100.0</b>	<b>431 662</b>	<b>100.0</b>	<b>69 279</b>	<b>100.0</b>
埼 玉 県	835 237	32.4	100 863	30.8	122 364	28.3	18 597	26.8
千 葉 県	654 538	25.4	62 343	19.1	68 890	16.0	13 816	19.9
神 奈 川 県	942 441	36.5	126 064	38.6	206 073	47.7	32 241	46.5
山 梨 県	7 737	0.3	2 814	0.9	2 639	0.6	1 299	1.9
他 の 道 府 県	139 092	5.4	34 927	10.7	31 696	7.3	3 326	4.8
八 王 子 市								
<b>総 数</b>	<b>79 234</b>	<b>100.0</b>	<b>46 311</b>	<b>100.0</b>	<b>111 049</b>	<b>100.0</b>	<b>17 634</b>	<b>100.0</b>
<b>特 別 区 部</b>	<b>6 012</b>	<b>7.6</b>	<b>5 739</b>	<b>12.4</b>	<b>37 763</b>	<b>34.0</b>	<b>5 049</b>	<b>28.6</b>
<b>市 部</b>	<b>43 907</b>	<b>55.4</b>	<b>18 183</b>	<b>39.3</b>	<b>51 477</b>	<b>46.4</b>	<b>9 467</b>	<b>53.7</b>
立 川 市	2 743	3.5	1 076	2.3	6 493	5.8	944	5.4
武 蔵 野 市	730	0.9	324	0.7	1 557	1.4	406	2.3
三 鷹 市	758	1.0	419	0.9	1 362	1.2	164	0.9
青 梅 市	1 640	2.1	744	1.6	1 005	0.9	104	0.6
府 中 市	2 992	3.8	1 337	2.9	5 413	4.9	490	2.8
昭 島 市	2 512	3.2	740	1.6	2 086	1.9	249	1.4
調 布 市	1 528	1.9	973	2.1	2 641	2.4	503	2.9
町 田 市	4 410	5.6	2 178	4.7	4 420	4.0	1 793	10.2
小 金 井 市	842	1.1	471	1.0	731	0.7	352	2.0
小 平 市	1 067	1.3	660	1.4	776	0.7	401	2.3
日 野 市	10 218	12.9	3 041	6.6	9 532	8.6	1 462	8.3
東 村 山 市	617	0.8	430	0.9	305	0.3	73	0.4
国 分 寺 市	1 441	1.8	683	1.5	1 030	0.9	322	1.8
国 立 市	1 021	1.3	420	0.9	1 125	1.0	516	2.9
福 生 市	1 153	1.5	335	0.7	654	0.6	66	0.4
狛 江 市	198	0.2	148	0.3	200	0.2	59	0.3
東 大 和 市	757	1.0	357	0.8	307	0.3	88	0.5
清 瀬 市	146	0.2	128	0.3	68	0.1	24	0.1
東 久 留 米 市	272	0.3	194	0.4	112	0.1	13	0.1
武 蔵 村 山 市	639	0.8	257	0.6	485	0.4	134	0.8
多 摩 市	3 463	4.4	1 431	3.1	7 796	7.0	710	4.0
稲 城 市	880	1.1	490	1.1	1 104	1.0	191	1.1
羽 村 市	849	1.1	406	0.9	738	0.7	32	0.2
あ き る 野 市	2 552	3.2	550	1.2	1 265	1.1	311	1.8
西 東 京 市	479	0.6	391	0.8	272	0.2	60	0.3
<b>他 道 府 県</b>	<b>28 315</b>	<b>35.7</b>	<b>22 063</b>	<b>47.6</b>	<b>19 302</b>	<b>17.4</b>	<b>2 875</b>	<b>16.3</b>
埼 玉 県	5 411	6.8	5 723	12.4	2 049	1.8	468	2.7
千 葉 県	1 058	1.3	1 653	3.6	515	0.5	111	0.6
神 奈 川 県	18 139	22.9	11 093	24.0	14 683	13.2	1 641	9.3
山 梨 県	2 467	3.1	775	1.7	891	0.8	506	2.9
他 の 道 府 県	1 240	1.6	2 819	6.1	1 164	1.0	149	0.8
<b>そ の 他</b>	<b>1 000</b>	<b>1.3</b>	<b>326</b>	<b>0.7</b>	<b>2 507</b>	<b>2.3</b>	<b>243</b>	<b>1.4</b>

## 5 産業別昼・夜間就業者



卸売業、小売業が減少する一方で、  
医療・福祉が大幅に増加しています。

東京都の昼間就業者の産業別構成をみると、第3次産業の割合が最も高く72.1%を占めている。平成22年と比べ、第3次産業全体では就業者数が30,213人(0.7%)減少している。

就業者数が最も増加しているのが「医療・福祉」60,477人の増加で、最も減少しているのが「卸売業、小売業」94,714人の減少となっている。第1次産業は就業者数が290人(1.3%)の増加に対し、第2次産業は13,736人(△1.5%)減少している。

八王子市の昼間就業者を産業別構成で見ると、第3次産業の割合が最も高く72.3%を占めている。平成22年と比べると、第3次産業全体では就業者数が2,103人(1.2%)増加しており、最も増加しているのが「医療・福祉」の4,011人の増加で、最も減少しているのが「卸売業、小売業」の2,103人の減少となっている。

また、第1次産業は、就業者数が1,576人で、産業別構成は全体の1%をきっているが、19人(1.2%)増加している。その一方で、第2次産業は就業者数が48,616人で、510人(1.0%)減少している。

表5-1 昼間人口における産業(大分類)別就業者

(人、%)

産業大分類	平成27年		平成22年		平成22年～27年の増減	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	率(%)
東京都						
総数	5 858 959	100.0	6 012 536	100.0	△ 153 577	△ 2.6
第1次産業	22 690	0.4	22 400	0.4	290	1.3
農業・林業	22 028	0.4	21 718	0.4	310	1.4
うち農業	21 526	0.4	21 146	0.4	380	1.8
漁業	662	0.0	682	0.0	△ 20	△ 2.9
第2次産業	898 380	15.3	912 116	15.2	△ 13 736	△ 1.5
鉱業・採石業・砂利採取業	1 515	0.0	1 202	0.0	313	26.0
建設業	307 352	5.2	322 941	5.4	△ 15 589	△ 4.8
製造業	589 513	10.1	587 973	9.8	1 540	0.3
第3次産業	4 226 110	72.1	4 256 323	70.8	△ 30 213	△ 0.7
電気・ガス・熱供給・水道業	18 870	0.3	19 072	0.3	△ 202	△ 1.1
情報通信業	444 660	7.6	418 736	7.0	25 924	6.2
運輸業、郵便業	258 120	4.4	279 021	4.6	△ 20 901	△ 7.5
卸売業、小売業	817 975	14.0	912 689	15.2	△ 94 714	△ 10.4
金融業、保険業	219 054	3.7	219 825	3.7	△ 771	△ 0.4
不動産業、物品賃貸業	211 311	3.6	204 463	3.4	6 848	3.3
学術研究、専門・技術サービス業	326 560	5.6	314 829	5.2	11 731	3.7
宿泊業、飲食サービス業	331 599	5.7	364 100	6.1	△ 32 501	△ 8.9
生活関連サービス業、娯楽業	197 977	3.4	211 129	3.5	△ 13 152	△ 6.2
教育、学習支援業	267 175	4.6	260 930	4.3	6 245	2.4
医療、福祉	541 051	9.2	480 574	8.0	60 477	12.6
複合サービス事業	21 121	0.4	15 261	0.3	5 860	38.4
サービス業(他に分類されないもの)	400 993	6.8	392 010	6.5	8 983	2.3
公務(他に分類されるものを除く)	169 644	2.9	163 684	2.7	5 960	3.6
分類不能の産業	711 779	12.1	4 256 323	70.8	△ 3 544 544	△ 83.3
八王子市						
総数	247 855	100.0	253 920	100.0	△ 6 065	△ 2.4
第1次産業	1 576	0.6	1 557	0.6	19	1.2
農業・林業	1 568	0.6	1 551	0.6	17	1.1
うち農業	1 528	0.6	1 502	0.6	26	1.7
漁業	8	0.0	6	0.0	2	33.3
第2次産業	48 616	19.6	49 126	19.3	△ 510	△ 1.0
鉱業・採石業・砂利採取業	65	0.0	51	0.0	14	27.5
建設業	15 940	6.4	16 197	6.4	△ 257	△ 1.6
製造業	32 611	13.2	32 878	12.9	△ 267	△ 0.8
第3次産業	179 322	72.3	177 219	69.8	2 103	1.2
電気・ガス・熱供給・水道業	854	0.3	958	0.4	△ 104	△ 10.9
情報通信業	11 723	4.7	11 655	4.6	68	0.6
運輸業、郵便業	11 693	4.7	12 281	4.8	△ 588	△ 4.8
卸売業、小売業	36 786	14.8	38 889	15.3	△ 2 103	△ 5.4
金融業、保険業	6 480	2.6	7 009	2.8	△ 529	△ 7.5
不動産業、物品賃貸業	6 892	2.8	6 631	2.6	261	3.9
学術研究、専門・技術サービス業	10 486	4.2	10 365	4.1	121	1.2
宿泊業、飲食サービス業	14 812	6.0	15 236	6.0	△ 424	△ 2.8
生活関連サービス業、娯楽業	8 716	3.5	8 768	3.5	△ 52	△ 0.6
教育、学習支援業	14 230	5.7	14 164	5.6	66	0.5
医療、福祉	30 094	12.1	26 083	10.3	4 011	15.4
複合サービス事業	1 361	0.5	874	0.3	487	55.7
サービス業(他に分類されないもの)	18 076	7.3	17 239	6.8	837	4.9
公務(他に分類されるものを除く)	7 119	2.9	7 067	2.8	52	0.7
分類不能の産業	18 341	7.4	26 018	10.2	△ 7 677	△ 29.5

## 6 男女年齢別昼・夜間人口



八王子市では、昼間は女性が若干多く、夜間は男性が多いです。年齢別では、男女ともに25歳以上は夜間人口が多いのに対し、24歳以下は昼間人口が多くなっています。

東京都の昼間人口は、男性が女性より633,275人多くなっている（男性8,276,840人、女性7,643,565人）。一方、夜間人口では、女性が男性より181,891人多くなっている（男性6,666,690人、女性6,848,581人）。

平成22年と比べると、男性も女性も、昼間・夜間人口ともに増加している。

昼間人口と夜間人口を年齢ごとに比較すると、すべての階級で昼間人口が夜間人口を上回っているが、特に15歳～64歳の生産年齢階級において大きく上回っている。

また、男女別にみると、男性は20～60歳代、女性は20～40歳代で昼間人口が夜間人口を大きく上回っており、これらの層の流入が多くなっていることがわかる。

八王子市は、東京都と逆に、昼間に女性が男性より458人多くなっている（男性287,891人、女性288,349人）。一方、夜間は男性が女性より4,963人多くなっている（男性291,238人、女性286,275人）。

平成22年と比べると、男性も女性も、昼間・夜間人口ともに1%以内の増減率で減少している。

昼間・夜間人口を年齢ごとに比較すると、24歳以下では男女ともに昼間人口が夜間人口を上回っているが、25歳以上では男女ともに夜間人口が昼間人口を上回っている。

表6-1 男女別昼・夜間人口

	平成27年	平成22年	平成22年～27年の増減	
			増減数	増減率
(人、%)				
東 京 都				
男 性				
昼間人口	8 276 840	8 173 306	103 534	1.3
夜間人口	6 666 690	6 512 110	154 580	2.4
女 性				
昼間人口	7 643 565	7 402 824	240 741	3.3
夜間人口	6 848 581	6 647 278	201 303	3.0
八 王 子 市				
男 性				
昼間人口	287 891	288 721	△ 830	△ 0.3
夜間人口	291 238	293 462	△ 2 224	△ 0.8
女 性				
昼間人口	288 349	289 318	△ 969	△ 0.3
夜間人口	286 275	286 591	△ 316	△ 0.1



表6-2 男女年齢別昼・夜間人口

	昼間人口			夜間人口			昼間人口 指数
	計	男	女	計	男	女	
	東 京 都						
総 数	15 920 405	8 276 840	7 643 565	13 515 271	6 666 690	6 848 581	117.8
15歳未満	1 529 827	780 874	748 953	1 518 130	776 017	742 113	100.8
15～19歳	700 002	348 077	351 925	566 729	289 130	277 599	123.5
20～24歳	1 027 872	516 775	511 097	753 698	383 164	370 534	136.4
25～29歳	1 070 300	541 049	529 251	863 678	436 135	427 543	123.9
30～34歳	1 203 113	634 129	568 984	969 877	495 240	474 637	124.0
35～44歳	2 769 307	1 513 676	1 255 631	2 192 604	1 114 697	1 077 907	126.3
45～54歳	2 455 103	1 388 108	1 066 995	1 939 502	996 674	942 828	126.6
55～64歳	1 777 206	1 007 393	769 813	1 448 067	733 485	714 582	122.7
65～74歳	1 680 809	837 035	843 774	1 567 917	742 198	825 719	107.2
75歳以上	1 449 396	568 825	880 571	1 437 599	559 051	878 548	100.8
	八 王 子 市						
総 数	576 240	287 891	288 349	577 513	291 238	286 275	99.8
15歳未満	67 582	34 626	32 956	66 908	34 314	32 594	101.0
15～19歳	45 743	25 874	19 869	33 476	17 928	15 548	136.6
20～24歳	58 646	34 944	23 702	39 954	22 533	17 421	146.8
25～29歳	25 438	13 647	11 791	27 669	14 669	13 000	91.9
30～34歳	27 694	14 459	13 235	29 940	15 616	14 324	92.5
35～44歳	71 866	35 547	36 319	80 330	41 554	38 776	89.5
45～54歳	67 693	32 671	35 022	77 623	40 205	37 418	87.2
55～64歳	58 876	26 780	32 096	66 238	32 756	33 482	88.9
65～74歳	74 836	34 888	39 948	77 231	36 959	40 272	96.9
75歳以上	63 400	26 125	37 275	63 678	26 374	37 304	99.6

注) 総数には、年齢不詳を含む。

